

フードバンク + 隅田川医療相談会が一つになりました。

小さな声を集める・伝える

# つぶやま



May 2019 Vol.1 [NEWS]

一般社団法人 あじいる

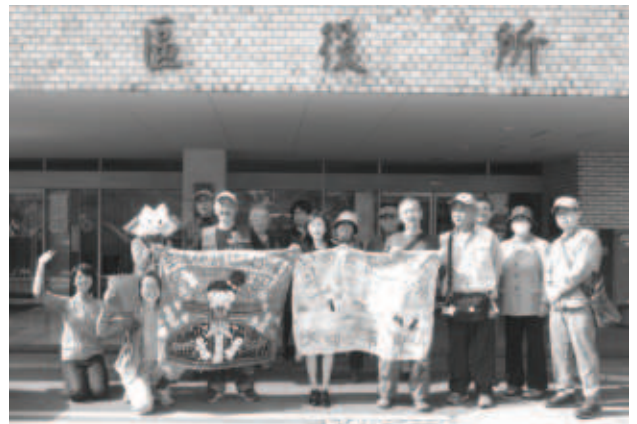




隅田川医療相談会で、フードバンクで、いつも一緒に活動している仲間みなさん、応援してくださっているみなさん、この場をお借りして『いつもありがとうございます！』……心からの感謝を申し上げます。そのうえで、医療と食を通してかけがえのない命を支えたい思いでそれぞれ活動してきたこの二つの団体が統合し、「あじいる」が誕生したことを、ここにご報告いたします。

私がこれまで代表をつとめさせていただいていた隅田川医療相談会は、2001年から山谷地区で活動していますが、生活保護で暮らしている仲間もたくさん相談に来てくれます。生活保護あるいはその水準ギリギリの状態でがんばっている人々は、住んでいる地域で孤立していることが多いのではないか、生活や医療の不安をきちんと相談できているだろうか？野宿をしている人と同様に、地域で困難な生活を送っている住民にも「医」が足りていないのではないか？という問題意識が最近メンバーの間に芽生えてきました。人々の声なき声を聞かなければ……「環境と健康の関係」を学び、助け合いの経験を積んだ相談会は、地域に出ていきたいと思うようになりました。

そこで、食を通じて支え合いのネットワークを築いてきたフードバンクの手引きによって、昨年は、活動報告会で荒川区社会福祉協議会の鈴木訪子さんや、あらかわ子ども応援ネットワークの大村みさ子さんにご講演をいただいたり、お祭り会場の一角でミニ相談会をさせていただいたり、少しずつ荒川区という地域につながりを創ることができてきました。また、生活（医療）保護を申請した仲間への処遇を巡り荒川区に改善を申し入れる際、地元の人権保護団体などに呼びかけを行ったところ、とても力強い応援をいただきました。



まだまだ知るべきこと、学ぶべきことがたくさんありますが、フードバンクとの統合によって、他の支援団体と横のつながりをつくりながら、「食」「医」が十分足りていない住民とつながりたい……支え合いの人間関係を、山谷から地域に広げることが、私たちの願いです。



もうひとつ、相談会がフードバンクと協力して成し遂げたことが昨年ありました。仲間の半生に光を当てる「あしあとプロジェクト」の立ち上げです。相談会で出会ってフードバンクの作業に参加してくれるようになった仲間の語る個人史を聞き取り、時に思い出の場所をいっしょに訪ね、出来上がったのは、じんとする、でもどこかカッコよくアートな感じに仕上がった読み応えのある冊子「あじいる」です。「個」の尊厳を浮き彫りにし、差別や偏見を吹き飛ばそうとするこの試みは、大きな反響を呼んでいます。

新しい団体『あじいる』は、このように、地域の横のつながりと、個を大切に深く掘り下げるといふふたつのベクトルを持って、あらたな歩みを踏み出します。どんな人にも居場所があって役割が感じられ、「生きていてよかった」と思えるような世の中を、上からではなく、下から、私たち自身の手で創っていくことができれば…そんな理想に向かって、皆でいっしょに考え、苦しみ、喜び、進んでいきましょう。どうかよろしく願いいたします。



一般社団法人あじいるのお披露目会にぜひご参加ください



荒川 朋世

法人化に伴い、今まで関りのあった方々をお招きして、お披露目会を行います。フードバンクは2000年、隅田川医療相談会は2001年から活動を開始しました。その間、様々な人や団体に支えられ、また、食や医療を通して支えてきました。今後は統合し、より幅広い観点から一人の人を支えることができる団体として活動していきます。

今思うと、2013年5月から始めた共同作業日の取り組みがひとつの転換期だったと思います。隅田川医療相談会としてみたら、体や生活の相談を受け、必要であれば福祉事務所や病院

に付き添い、寝食ができる場所を確保することで終わっていた活動を、もう一步踏み込み、当事者同士のつながりをつくれるような取り組みを行いたいと思っていました。フードバンクは登録団体が増加する一方、精米や食品の仕分け作業が追いついていなかったことや、お米を届ける先の当事者とのつながりが希薄だったため、当事者とのつながりをつくりたいという思いがありました。そのため、医療相談会で出会った仲間たちと一緒に作業をすることは両団体にとって願ったり叶ったりで、この共同作業日をきっかけに積極的に活動に関わる仲間が増え、「当事者とともに」という活動理念により近づきました。

そして2017年からはじめた「あしあとプロジェクト」。共同作業日に参加する仲間を中心に今までの人生を聞き取り、記録し、冊子にするプロジェクトは、私たちと一緒に活動している仲間たちの一生懸命に働いてきた姿、時にはどん底の生活を強いられていてもしぶとく生き抜く力強さ、そしてユーモアさが描かれています。

冊子を作る過程で仲間たちとの信頼関係はより一層強くなりました。そして、その下地があったからこそ新規事業「しげんカフェ」の取り組みを行えるのだと思います（企業組合あうんと協力の事業）。しげんカフェでは、地域に住む年齢や性別、国籍も様々な人々と資源を通して交流が生まれます。今回のお披露目会では、今までの両団体の取り組みと、その経験を活かし地域の活動に力を入れていく今後の取り組みについてご報告をします。今まで関りのあった方もない方も、ぜひご参加してもらえればと思います。

今回のお披露目会では、前半に今までの両団体の取り組みと、その経験を活かし地域の活動に力を入れていく今後の取り組みについてご報告をします。後半は、両団体にとって協力関係のある方々をお呼びします。そして、貧困問題に取り組む中で見えてきた地域のあり方についてざっくばらんに語り合い、今後の連携のし方について考えていければと思います。様々な方面で活動している方たちが集まるので、素敵な交流が生まれるはずですよ。ぜひ、今まで関りのあった方もない方も、ご参加してもらえればと思います。

## 一般社団法人あじいる お披露目会

2019年7月7日（日） 14：30開始（14：00開場）

サンパール荒川 第7集会室（東京都荒川区荒川1-1-1）

資料代500円

交流会費 1,000円





一般社団法人あじいるとして、新しい第1歩を踏み出した私達ですが、これをきっかけにこれまでにない新しい取り組みを始めました。それが“しげんカフェ”の取り組みです。これは、企業組合あうんがこの4月から新規事業として始めたものです。“しげんカフェ”とは、愛知県津島市で始まった取り組みです。古紙、古着、空き缶等、資源になるものをポイントで買い取り、それを地域の交流の場であるカフェを併設しながら、そこで使ってもらおうという仕組みです。基本的には持ち込みが原則ですが、週1日（木曜日）あじいるが運営することにより、作業日に集まっている仲間が参加し、みんなで出向いて行って集めることになりました。そしてそれはボランティアポイントという形で、荒川区内の子ども食堂等、こども達の支援をしている“あらかわこども応援ネットワーク”へのカンパということになります。地域の人達が、家の資源を持ってくることで、地域の子ども達を支えていける仕組みです。この間の、愛知への見学を皮切りに、実際の資源買取の様子をお伝えします。

### 3月24日 愛知県津島市の“しげんカフェ”名古屋の“わっぱの会”へ見学

朝7時集合で、マイクロバス1台を借りて、総勢15名で出発しました。仲間たちは、お菓子を買込み、お気に入りのCDを持ち込み、ウキウキ。お天気も良く、絶好の行楽日和です。東名に入るところには、富士山の姿が見え始め、それがだんだんと大きくなり、興奮も絶好調。「こんな近くで富士山見たの初めて」との声も・・・そ



んなこんなで、渋滞することもなく、お昼前には津島に到着しました。そこで待っていてくれたのは、この“しげんカフェ”を作った浅井さん。大きなビニールハウスの中の資源買取センターに圧倒されました。次から次へと車で持ち込まれる資源。それを手際よくさばっていくスタッフの方々。ここは年金世代の方たちが働いているので、年齢的にも近く、みんな熱心に見ていました。

そこから浅井さんも同行して、名古屋の“わっぱの会”が1年前から運営している「ソーネ



おおぞね」へ。わっぱの会は、「障害を持つ人も持たない人も、共に働き、共に生活し、共に生きる社会を実現しよう」として、すでに40年以上活動をしている団体です。大きな団地の1階部分に、カフェレストラン、パン屋さん、作業所で作られた製品のアンテナショップや野菜や食材売り場、そしてイベント会場、隣には資源



買取センターという形で、作られています。当日は、“キッズフェア”ということで、地域の子ども達が縁日をやったり、仕事体験をしたりと大賑わいでした。この雰囲気圧倒されて、「こんな場所があるからできるんだよ。」という後ろ向き発言も・・・ただここでは、資源を持って来る人も自転車や徒歩で持ってくる人が多く、当日来たベビーカーを押してきた若いお母さんは、本当にわずかな量でしたが、スタッフと顔なじみのようでした。こういう人たちとつながり、支え合うことが重要なのだと改めて感じました。

この1日見学は、現場にいたのは、正味3時間くらいでしょうか？それでも帰りは渋滞に巻き込まれ、東京に到着したのは夜9時を回っていました。なんとも忙しい愛知県見学旅行でしたが、なんだかよくわからなかったものが、実際見てなんとなくイメージできたのではないかと思います。

## 4月4日 初日の資源買取り — こども村の子ども達とともに



さあ、初日です。なんだかよくわからないままに始まった資源買取り。とにかく、みんなで缶をつぶそうと駐車場に段ボールや毛布を敷いて、音が出ないように缶つぶしです。これは経験者が、こうやるんだよと教えてくれます。とにかく仕事が早い！早すぎる！あっという間に終わってしまいます。11時ころになって、なんと“あらかわこども応援ネットワーク”の参加団体である“こども村中高生ホッとステーション”の子ども達を代表の大村みさ子さんが引き連れてきてくれました。子ども達も交えて、リヤカーに造花の花を飾る花車作り。このリヤカーは、医療相談会の前日のパトロールの時に毛布を積んで回るものです。月に1度しか登場がなかったリヤカーですが、これからは活躍してくれそうです。



この日は、子ども達も一緒に、あうんで作ったカレーライスを食べ、午後には解散しました。

## 4月11日 商店街に花車登場



お天気だけが心配な資源買取り。この日は前日の寒さと雨が嘘のように晴れ渡りました。あうんで地域のチラシまきをした効果が少しずつ出始めたようで、朝からポツポツと資源を持ってきてくれる方が来ます。お昼を食べた後、ついに花車登場です。商店街の先にある“ほしのいえ”（山谷でおにぎり配り等の活動をしている団体）に行くことになりました。途中で、行ったメンバーから電話が入ります。「すごいよ。すごいよ。商店街でチラシを配ったら、ダンボールがいっぱいだよ。乗り切らないから帰るね」とのこと。大量のダンボールを積んで、意気揚々のご帰還。みんなではかりに載せます。ドキドキしてみると、「20kg」との声。「おーおー」とみんなで大喜びです。これはすべて、ボランティアポイントとして子どもたちのために使われます。「このリヤカーはたいして載らないから、板を立ててゴムバンドで縛る必要があるよ」と、早くもリヤカーの改造案が出ます。まだまだ先は長いから、少しずつ改善して行こうね。これは仕事じゃないけど、なんか楽しい1日でした。



こんな感じで、少しずつ前進している、資源買取りです。月に1回の作業日から一挙に週1回の活動へ。これまでは活動団体間の交流はあったものの、地域の中に出ていくことはありませんでした。あじいるの仲間が、地域の中に胸を張って出ていくことの意味は大きいと思います。この活動が、社会的な意味を持っていること、そこに地域の人達を呼び込んでいくことを、仲間と共に先頭に立って担っていくことは、新しい地平と言えるでしょう。これからも、高齢でも体が悪くても誰でもできる仕事づくり等、課題はありますが、1つ1つみんなで考えていけたらいいなあと思います。





## 「あじいる」第3号を発行しました



齋藤 有子

今回の号は最初のインタビューから完成まで約2年がかかりました。インタビューさせていただいた私のまとめる作業が遅かったことが理由なのですが、それはインタビューの回を重ねるごとに今号の主役、原沢さんの語りが熱くなり、どこを削ってどこに厚みを持たせるのかという編集作業がとても難しかったからです。北海道で過ごした幼少期、部活に励んだ青年期、そして新聞の配達・営業販売と昭和から平成へ時代を駆け抜けた原沢さんの人生はどの部分が欠けても今の原沢さんに至らない大切な要素。初めて編集作業をする中でその部分に悩みました。そしてその悩みに付き合ってくれたこの「あしあとプロジェクト」のメンバーの支えによってやっとこさ出来上がったとても大切な一冊です。

有料にはなってしまいますが、ぜひ多くの方にお読みいただきたい！ご希望の方はどうぞ [aji\\_iru@yahoo.co.jp](mailto:aji_iru@yahoo.co.jp) までお問い合わせください。



0

坪一さんと「じん肺」のコラムを書いた毛利医師（日帰り旅行にて）

追記させていただくと、この「あじいる」は紙媒体という特徴もあってどこかのタイミングで完成を迎えなければなりません。でも登場してくれた仲間たちの人生は毎日変化を続けています。WEBサイトでは「その後」のようなものを公開していけたら、と思っていますので、乞うご期待ください。その極々一部をご紹介します。

第1号に登場してくれた足尾銅山や山谷で働いてきた坪一さん。この号の発行がきっかけとなり、中のミニコラムでも取り上げた銅山労働者に多い「じん肺」で労災を取得するに至りました。作業日にも体調によるけれど





元気に作業中の亀山さん

参加をしてくれています。80代後半とかなり高齢の坪一さんの前では皆が青年の顔になるのもなんだかほっこりします。坪一さんの頑張ってくれる姿をみて他の60-70代の仲間たちが「俺たちもまだまだ」と元気づけられているのです。

第2号に参加してくれた亀山さんは刊行後も変わらずに亀山さんです。大きな声と大きなジェスチャーで楽しそうに話す姿に時々「落ちついて!」と思うこともあるけれど(笑)そこが亀山さんの味わいです。他の仲間からも「亀山さんがいないとなんか寂しいんだよな」となんとも憎めない絶妙なキャラクターです。

そして第3号の原沢さん。完成間近のある日「レコーダーっていくらするの」と突然尋ねてきました。理由をきくと、あじいる編集班と思い出の地を訪問したあとも、自分で自分の足跡をたどり都内各地をまわっているとのことでした。最初は気がついたことを書き留めたりしていたそうですが、目が悪いためボイスレコーダーがいいと思ったようです。自分の人生を誰かに語ることに、そのことが私たちに原沢さんの新しい面を見せてくれました。原沢さんが自ら何を記録し残したいと思っているのか、とても楽しみです。



原沢さんが持ってきてくれた地図を広げて

## ご注文方法

「あじいる」は1冊200円で販売しています(創刊号は無料ですが、送料をご負担いただきます)。ご注文の際には、下記の情報を [aji\\_iru@yahoo.co.jp](mailto:aji_iru@yahoo.co.jp) にお送りください。

① 氏名 ② 送付先住所 ③ 電話番号 ④ 注文部数

※ 送料・振込手数料はご負担いただいておりますので、あらかじめご了承ください。

### ● 手紙作成・・・送付数 130 通 / 月 (2019 年 3 月時点)

月にいちど相談会でつながった方たちに、イベントのお知らせや健康管理などの情報を手紙にして送っている。

### ● 夜まわり・・・浅草：延べ 236 名 | 上野：延べ 518 名

医療相談会の前日に、浅草・上野の 2 カ所を回る。路上で寝ている方たちに、毛布と相談会開催のお知らせのチラシを配りながら、声をかけて回る。

### ● 医療相談会 (毎月 第 3 日曜日に隅田公園山谷堀広場にて開催)

【医療相談】 医師や看護師による健康の相談。血圧・血糖値測定などの簡易的な検査も実施。

延べ 29 名 (男性 25 名、女性 4 名) ※ うち生保 14 名 健保 1 名

年齢別 | 30 代：0 名 40 代：5 名 50 代：5 名 60 代：12 名

70 代：6 名 80 代：1 名

紹介先 | 福祉事務所経由：6 件 同愛記念病院：5 件 橋場診療所：4 件

ひまわり診療所・浅草病院・その他：各 1 件 (計 18 件)

【薬の相談】 上記の相談に基づき、内容によっては市販薬 3 日分配布。医療従事者が担当。

配布：延べ 421 名

【鍼灸】 体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う。

施術延べ 44 名

【散髪】 会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る。

延べ 133 名

【生活相談】 生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談を受けている。

延べ 15 名

【アパート相談】 生活保護受給後のアパート転居等、住まいに関する様々な相談を受けている。

延べ 1 名

【法律相談】 債務整理その他、法律の相談を受けている。法律家が担当。

延べ 0 名

【炊事】 仲間のご飯をみんなで作る！

平均 150 食 / 月

【おしゃべりコーナー】 仲間が気軽に話せる場所づくり。仲間の悩みは仲間が解決！

### ● フォロー活動・・・延べ 8 名

相談に来た方たちの中で、生活保護の利用を希望する方や継続的な治療が必要な方の医療機関・福祉事務所への同行を行う。入院した方のお見舞いや、継続的な相談の対応も行う。

# お米の配送状況（2018年11月～2019年3月）

池上 哉美

登録団体名(受け渡し先)	11月	12月	1月	2月	3月	合計
あかね			5			5
浅草聖ヨハネ教会		60				60
足立インターナショナルアカデミー				5		5
足立野宿者支援の会さくら				20		20
エープラス	30				40	70
大田幸陽会	20	25	20	20	20	105
カトリック東京国際センター			20	30	100	150
北関東医療相談会	300	200	100	175	220	995
グループ・ピポ	20	20				40
子どもの居場所イン町屋	30			40		70
サークルドア	75	50	60	0	90	275
こども食堂サザンクロス	20	10				30
汐入診療所		5		5		10
女性ネットSaya-Saya	20	20				40
女性の家ヘルプ				20		20
しんぐるまざあずふおーらむ		110	410			520
隅田川医療相談会	25	25	25	25	25	125
ちがさきHL支援の会	70	80	40	40	40	270
のじれん		300			300	600
ハイツ尾竹				10		10
東日暮里子ども食堂		5				5
ホームとらむ			5	10		15
ホームトリノス		30	30		30	90
ほしのいえ		200				200
ぼたらか	30	30			30	90
ほっこりアイランド		10		15	20	45
末日聖徒イエスキリスト教会	30	30	30	30	30	150
みのわマック	80	40	40	40	60	260
友愛会	150		140	110	100	500
合計	900	1,250	925	595	1,105	4,775

# お米のカンパ受取状況（2018年11月～2019年3月）

齋藤 有子

いつもご支援くださっている個人の皆さま、農家の方々、そして教会やお寺からもお米や資金のカンパで支えていただいています。  
この場を借りて感謝申し上げます。

11月	12月	1月	2月	3月	合計
699kg	1715kg	1032kg	367kg	415kg	4227kg



隅田川医療相談会 会計報告（2018年11月～2019年3月）

池上 哉美

収入（円）		支出（円）	
寄付金	¥603,772	薬剤費	¥123,260
賛助会費	¥156,000	施設費	¥312,000
医薬品（現物寄付）	¥236,949	医薬品（寄付品の配布）	¥236,949
活動報告会・イベント等	¥64,150	印刷費	¥230
毎日新聞社	¥250,000	通信費	¥67,386
利息	¥13	行事・作業日費	¥53,677
		備品費	¥16,829
		車両費	¥94,400
		フォロー交通費	¥22,666
		フォロー飲食費	¥24,667
		フォロー雑費	¥46,800
		炊き出し費用	¥109,257
		雑費	¥14,065
小計	¥1,310,884	小計	¥1,122,186
繰越金	¥3,155,598	繰越金	¥3,344,296
合計	¥4,466,482	合計	¥4,466,482

フードバンク 会計報告（2018年11月～2019年3月）

荒川 茂子

収入（円）		支出（円）	
寄付金	1,701,280	われ米プロジェクト	379,782
新米販売イベント出店	28,400	広報費 ニュースレター	108,692
バザー販売	10,390	電話代	65,167
米作り参加費	123,865	電気代	64,498
アトミジャパン助成金	200,000	家賃	900,000
受取利息	11	車両 共同利用分担金	59,890
		配送・運搬	86,485
		作業日経費	60,471
		事務消耗品	32,686
		ボランティア保険料	2,850
		小林さん	450,000
		名古屋見学 経費	52,083
		消耗品	3,976
		振込手数料等	1,262
		お土産代	6,361
収入合計	2,063,946	支出合計	2,274,203
前年度繰越金	3,078,902	次年度繰越金	2,868,645
	5,142,848		5,142,848

# あじいる予定表（2019年5月～9月）



	医療相談会	フードバンク	資源買取	その他
5月	18/土 夜回り	11/土 作業日・配送	9/木	
	19/日 医療相談会		16/木	
	20/月 フォロー活動		23/木	
			30/木	
6月	15/土 夜回り	1/土 作業日・配送	6/木	
	16/日 医療相談会	2/日 田植え	13/木	
	17/月 フォロー活動		20/木	
			27/木	
7月	20/土 夜回り	6/土 作業日・配送	4/木	7/日 御披露目会
	21/日 医療相談会	14/日 草取り(未定)	11/木	
	22/月 フォロー活動	27/土 作業日・配送	18/木	
			25/木	
8月	17/土 夜回り		1/木	山谷夏祭り(予定)
	18/日 医療相談会		8/木	
	19/月 フォロー活動		22/木	
			29/木	
9月	14/土 夜回り	7/土 作業日・配送	5/木	
	15/日 医療相談会	29/日 稲刈り	12/木	
	17/火 フォロー活動		19/木	
			26/木	

・隅田川医療相談会とフードバンクが統合して「一般社団法人あじいる」になりました。資源買取事業も加わります。新たな出発を祝して御披露目会を7月7日(日)に催します。

・毎月第3日曜日の医療相談会では、野宿者をはじめ生活に困窮した方々の医療&生活相談をおこないます。前日の夜回りで野宿者に声掛け。フォロー活動で福祉につなげます。9月のフォロー活動は17日(火)です。

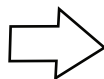
・活動に参加したいなと思ったら、どれか一つでも構いません。予定が変わることもあるので、事前に必ずご連絡ください。

# カンパのお願い

一般社団法人あじいるの活動にご理解・ご支援いただきありがとうございます。引き続きカンパ・ボランティアをしてくださる方を募集しています。

## ● お米

- 平成 28 年度以降のもの
- 玄米・白米 ともに大丈夫です
- 外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- 大口（100kg 以上）の場合は事前にご連絡ください

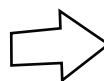


お送りいただく際のお願い

お送りいただく際の送料は  
ご負担いただいております。  
ご了承ください。

## ● 食品

- 賞味期限が 2 ヶ月以上残っているもの
- 日持ちするもの  
（レトルト食品・缶詰・調味料・乾麺・非常用食品など）



## ✕ 受け取ることができません！

- ✕ 賞味期限が 2 ヶ月残っていないもの
- ✕ 開封後の食品
- ✕ 生鮮食品
- ✕ 商品説明が外国語のみのもの

## ● 必要物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品（靴下・男性用下着・タオル・カミソリ・歯ブラシ・石けん）、テレホンカード（携帯電話を持たない方の連絡用）、未使用切手、湿布薬、小型ラジオ

## ● 賛助会費

一口：3000 円（年間） 現金カンパも随時受付中

お米や食品を備蓄する低温冷蔵庫の維持費、食品や物資運搬用の車輻費・燃料費、医薬品や備品に必要な経費、共同炊事の経費、医療機関や福祉事務所への交通費、出版物の印刷費、事務所の維持費などに使わせていただきます

### 【振込先】

- 銀行振込  
ゆうちょ銀行 ○一九店  
□座名義：一般社団法人あじいる  
当座預金：0673914

- 郵便振替  
□座番号：00110-0-673914  
□座名義：一般社団法人あじいる

## ● ボランティア

生活や健康状態の相談会、夜間パトロール、登録団体への食料の配送作業、イベントへの出店など、たくさんの人の手が必要です。社会人だけでなく、学生など、どなたでも参加いただけます。初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

### 【送付・問合わせ先】

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 1-36-10 あうん気付 一般社団法人あじいる

TEL：03-5850-4863

FAX：03-5850-4864

Email: aji\_iru@yahoo.co.jp